

KYUSAN JOURNAL

九州産業高校通信【九産ジャーナル】



SUMMER
2022 AUG

NO. 7



このイラストは水田慶君(2 普 14/鳥栖中学校出身)が描いたものです。

水田君にとって九州産業高校は、丘の上の高台に建つ全校生徒の多い大きな学校というイメージで、その分学び舎にはたくさんの夢が詰まっていると感じているそうです。白黒で表現するのが水田君の得意な絵画技法で、この作品は水田君の独特の視点で本校を描きました。この絵画の制作期間は約 2 か月。iPad だけで制作をしています。水田君は 1 年生に配信している 10 分間ドリルの表紙も担当しています。

KYUSAN HISTORY

校長 × 1年生

2027年に創立60周年を迎える九州産業高校。在校生が意外と知らないその歴史を、本校の卒業生でもある組坂法人校長先生(1980年度卒業)にお話しして頂くため、卒業アルバムを見ながら、1年生(普通科14組)の4人との座談会を開きました。



安東蒼太くん
(平野中学校出身)

田端樹くん
(筑山中学校出身)

組坂法人校長先生
(吉井中学校出身)

黒木惟吹くん
(横手中学校出身)

中村幸大くん
(横手中学校出身)



校長 安東

校長は驚きました。日々の努力が結果につながっていて、嬉しいですね。

校長 中村

校長先生は高校生の時に部活動はされていたんですか？

校長 田端

あれ？修学旅行が海外ですね。私のときは韓国。綺麗なところでした。でもこの頃以外は昔から沖縄への修学旅行で、これも九産の伝統だと思います。

校長 安東

当時の制服は学ランで、女子生徒も今よりかなり少なかったです。ちなみに、私が入学した年に、野球部が初の甲子園出場。応援に行ったのが今でも思い出深いです。今の野球部の吉竹監督も出場していました。野球といえば、現在、ヤクルトスワローズで活躍している梅野雄吾投手も卒業生。野球部はじめ、当時から体育部は強かった。

校長

あと数年で六十周年。自分が高校生のころからはだいぶ変わりました。



過去を知り、今を見つめ、未来を考える

校長 田端

みんなは入学して約4か月、九産での生活はどうですか？楽しいです！生徒数が多いからこそ、気の合う仲間もでき、交友関係も格段に広がりました。先生たちがフレンドリーだから楽しいです。先生から話しかけてくれることも多いし、考えとか経験をたくさん話してくれるから、将来について考えるきっかけにもなります。友人と一緒に放課後も楽しく勉強ができる環境があるのも嬉しいです。

校長 中村

通学時間に友達と話すのも楽しいし、行動範囲も広がりました。充実しているようで嬉しいです。勉強以外の経験が財産になることも多いから、ぜひいろいろな経験をしてください。ところで、進路は決めていますか？

校長 田端

自分は正直、将来の目標があまり決まっていなくて……。

校長 安東 黒木

大丈夫。焦る必要はないです。私は読書好きだったから、大学は文学部へ進みました。その後、縁があつて母校の教員に。自分の巣立った学校の成長をこまで見届けられるとは思っていませんでした。時代とともに、進学実績が求められるようになってきたものの、一時期は生徒数も今の半数近くで学校全体に元気がない時もありましたが、特進クラスを新設して雰囲気が変わったと思います。生徒はむしろ先生たちも必死に勉強して、特進一学期から九大合格者を出すことができました。でも、大事なのは進学実績だけではなく、学校生活で多くの考え方に触れ、目標を探りながら、毎日を充実させていくことです。3年後、思い描いていた進路になるかは分からないけれど、良い高校生活だった、ここで成長できたという充実感が育たないと、この先も実りあるものにはなりません。向上心を持って、自分の可能性を感じてほしい。そして、それを成長させる土壌を養える学校でありたいと思っています。

吉田 七菜 さん
春日野中学校出身



阿部 宥太 くん

学院院中学校出身

×

クラス異動経験者に

×

準特進クラス

(2年生文系/卓球部所属)



問う



特進クラス

(3年生理系/ソフトテニス部所属)

九州産業高校の普通科には、学年ごとにクラスの異動ができるシステムがあります。例えば、1年生の時に準特進クラスに入学した生徒が2年生になって特進クラスに異動するなど、それぞれの学力と目標設定に合わせて異動が行われます。厳正な審査があるため、希望者全員が異動

できるわけではありませんが、最近には多くの生徒がクラス異動の意志を持ち、向学心を高く持って毎日の学校生活を送っています。

実際にクラス異動をした生徒はどんな思いでクラス異動をして、今はどのような学校生活を送っているのか、インタビューをしました。

Q クラス異動をしようと思ったきっかけは？

1年生の時に、毎日の学習をすればするほど成績が伸びることを実感して、叶うならばクラスを異動して、もっと自分自身の成績を伸ばしたいと思ったからです。

将来は西南学院大学へ進みたいという思いが以前からありましたので、難関私立向けのクラスで勉強をやりたい気持ちが強かったです。



Q クラス異動をしようと思ったきっかけは？

私は1年生から2年生に上がる時に特進クラスに異動することができました。入学当初から特進クラスに異動したいという思いで勉強していましたし、2年生から3年生に進級した今も、継続して特進クラスで学んでいます。

1年生の時に大学調べをした際、国立大学は私立大学と比べて研究がより活発であるという点を知り、そこに国立大学の魅力を感じました。大学では専門的な研究を重ねて、将来は薬剤師や理学療法士などの医療関係の道に進みたいと考えています。夢を叶えるためには国立大学に進みたいと考えたのが、異動を志したきっかけです。



Q 目標を達成するために実践したことは？

授業で分からないところがあれば、その都度必ず先生に聞いていました。特に英語の質問が多かったと思いますが、教科担当の英語の先生が不在の時でも他の英語の先生も柔軟に対応してくれたのは嬉しかったです。また、授業で習ったことはその日のうちに家で類似問題を解くようにしていました。テスト前は約1か月前から勉強をするように意識しています。絶対にテスト前日に焦ることがないようにしていました。自分がやる気が出る教科から始め、その調子そのまま苦手な教科をするようにしていくのが私流の勉強方法です。そうすると私の場合、苦手意識が薄らいで知識が定着していくのが実感できます。



Q 異動前後で学校生活に変化はありますか？

何事にも前向きで情熱的に向上心を持った人たちがまだまだたくさんいることに気づかされました。それと同時に自分自身も「もっとここで頑張りたい！」と思うようになりました。授業では小テストが増え、より内容も難しくなったので、毎日短い時間でも勉強する習慣が自然とつきました。また、部活の大会前は移動時間も、大会当日は試合の待ち時間も使いながら勉強をするようになりました。



Q 異動前後で学校生活に変化はありますか？

特進クラスへ異動したことにより、部活の時間は減りました。ただ、異動は自分が希望した選んだ道であり、当然現実を受け入れながらも、一人の部員として、また、主将として周りの人と差がつかないように1回の練習の質を追求するように心がけました。前日の反省点を生かし、部活の時間は悩むことをなくすようにし、新しいことに挑戦する時間として当てるようにしていました。

Q 目標を達成するために実践したことは？

目標を達成するためには、過去の自分や周りの人と比べた時に、学力の差をどんどん広げていかないと考えています。

恐らくみんなが遊んでいるだろうと思われる時間や不必要にスマホを触っている時間に、私は問題集を解き、就寝前や起床後は単語帳を見るなど、自分に厳しく、私自身が考える当たり前のことを当たり前に行っている、毎日続けています。



将棋部

将棋部が8月3日から開催される第46回全国高等学校総合文化祭とうきょう総文2022に出場します。春の福岡県大会の団体戦で優勝し、初の全国大会出場の切符を勝ち取りました。

出場する3人が将棋を始めたのは高校生になってから。入部当初は顧問の川原先生の強さに圧倒されながらも、対局を続けて成長を実感できるようになったそうです。まだまだ成長を続ける3人が全国でどう戦うのか注目です。

県大会では予選の初戦で負けたものの、「一度負けたからこそ士気が上がって優勝することができた」と、出場する3人は口を揃えて言います。3人の目標は「まずは一勝」。福岡県代表として、真夏の熱い戦いに挑みます。

初の全国大会に全力で挑む 将棋初心者が掴んだ夏の晴れ舞台

陸上競技部や弓道部、バレーボール部、吹奏楽部など、全国大会や九州大会に多く出場した経験のある「強豪」と呼ばれるような部活動がいくつもあります。それ以外にも頑張っている部活動や高い目標を自ら掲げて課外活動に取り組んでいる人がいます。ここではその一部を紹介します。



④前列左が上妻洋翔君(3普 8/筑紫野南中学校出身)、中央が松隈優介君(3機 1/大原中学校出身)、右が鶴川敦大君(3普 1/筑紫野南中学校出身)。この3人で全国大会に挑みます。



水泳競技の九州大会に出場した福富さん。本校には水泳部がないためスイミングスクールで練習を重ねています。次の目標は「秋の九州大会で表彰台に乗ることと来年のインターハイの決勝で泳ぐこと」と話してくれました。

水泳競技

7月16日から3日間に渡り全九州高校水泳競技大会が熊本県で開催されました。出場したのは福富志真さん(1普 14/御陵中学校出身)です。100Mと200Mのバタフライに福岡県の代表として出場しましたが、結果はいずれも4位で惜しくも表彰台を逃しました。大会前後に多くの方からエールをもらったという福富さんは「エールを送ってくれた方に恩返しをするためにも、次の大会でこの悔しさは晴らします」とすでに気持ちを切り替え、練習に励んでいます。

福富さんは3歳から水泳を始めて、小学校6年生からは毎朝5時から6000M程泳ぎこんで登校する日々を送っています。将来の夢はオリンピック選手になること。オリンピックの舞台で泳ぐことを夢見る福富さんのこれからの活躍に期待が膨らみます。

応援をしてくれた方々へ 次は表彰台から恩返しを

見てくれた人に楽しみを届けたい

美術部

独特のタッチで本校を描いた(本誌表紙)水田君は、現在美術部に所属しています。9月に行われる予定の体育祭の大看板のデザインと年末に出展する黒板アートのデザインを担当。部には欠かせない存在です。個人の作品作りにも没頭している毎日、絵具を使った抽象画にも挑戦中。作品の完成が楽しみです。

